

第1回 肺がんサロン「レモンタイム」開催

外来看護師 藤本 朋美

近辺にも、「がんサロン」はありますが、肺がんの治療をしているのは有明地区では当院がメインでもあり、ケモカンファレンスチームの中で、「肺がんの患者さん家族の方の憩いの場、安らぎの場の提供をしたい＝肺がんサロンを開設したい」と提案があり、11月15日（土）第1回肺がんサロン「レモンタイム」を福祉センター3階で開催しました。

当日は、患者さんや家族（夫・妻）27名の参加でした。前半は本田医師より「サロンとは」についての説明と、「筑後～熊本地区のがんサロンの紹介」、「サロンの規程」「今後の運営」についての説明がありました。

後半は患者さんや家族（夫・妻）が4～5人ずつ6テーブルに分かれて交流会を行いました。同じ病気を抱える患者さん同士、またがん患者を支える家族同士とはいえ、初めて顔を合せる方が上手く会話が始まるのか、また、話が続くのか心配していましたが、和気あいあいとした雰囲気での交流会が始まりホッとしました。「誰が患者で家族かわからない・・・と（家族に）間違えられた」という患者さんの声も聞かれました。

各テーブルを廻り写真撮影を行いました。皆さん笑顔で撮影を快諾され御夫婦二人の撮影やテーブル毎の撮影が出来ました。テーブル毎での話も弾み、皆さん終始笑顔でなごり惜しそうに、帰りの際は「今日は来てよかった。」と声も聞かれました。

アンケート結果では、サロン開催日時について「86%が土曜でいい。」時間「91%が適当である。」内容について「61%講義形式、21%経験談（重複回答あり）」運営について「52%医療者側、18%患者」、開催時記について「61%季節ごと、17%年2回、13%毎月」の結果が出ました。

その他の意見としては、「自分は一人では無いんだと思えた。」「和やかで楽しかった。」「同じ病気の方と話して良い経験が出来た。」「通院中は質問しづらいので、色々聞いて良かった。」「苦しんでいるのは自分だけではないんだと思い、患者同士話が出来て心が楽しくなった。」「とても楽しく参加出来た。また参加したい。」「これからは不安を考えず前向きに頑張っていきたい。」「良かった。今後も宜しく。」「今後のお話で食事のことについて聴きたい。」「初めてで分からないです。こういう場を今後も設けてほしい。」「皆さんが気持ちよく話せる雰囲気が必要と思うので、なんでもお話ができるような会にしてほしい

と思う。」等の意見を頂きました。

主治医や普段接している看護師も、患者さんの表情が受診時と違う為、誰だか解らず探してしまう程の素敵な笑顔と和やかな雰囲気でした。

当日の様子を撮影した写真を見ても、皆さんの満面の笑みが溢れていたことを後日写真を印刷して改めて実感し、スタッフ一同満足感と達成感を感じさせて頂きました。

再診察時には、「また（サロン）して下さいね。」「続けて下さいね。」「楽しかった。」と声をかけてもらいました。

また写真を渡した際には、「記念に飾ります。こんな笑顔（夫＝患者）を見たことがないです。」「楽しかったもんね～」「写真のとき（妻＝家族は）こんな笑顔はしない、したことがない。」と言って下さる表情は明るい笑顔でした。

今回のアンケートを参考に今後に生かして、定期的（3～4回/年）開催を軌道に乗せること、コンセプトの「安らぎの場の提供」になることを目指し、更なるチーム医療とがん看護ケアを目指していきたいと思います。